

CoSTEP 20th

2005 - 2025

CoSTEP が開講したのは、サイエンスコミュニケーション元年ともよばれた 2005 年です。各地でサイエンスカフェが実施され、大学には科学技術コミュニケーションに関する講座が設立されました。多くの大学で大学院生のための副専攻として位置づけられていた科学技術コミュニケーションの教育プログラムですが、北大 CoSTEP だけは学生と学外の受講生が共に学べるよう、一般にも教育プログラムを開きました。科学技術コミュニケーションが学術の場からの発信に閉じないように、多様な立場の科学技術コミュニケーターが活躍できるように、そんな思いから CoSTEP の教育は誰でも受講できる形式を取りました。研究者、ジャーナリスト、起業家、アーティスト、デザイナー、政治家、漫画家、企業の広報担当者、会社員、学芸員、公務員、フリーのサイエンスコミュニケーター、社会活動家など、社会のあらゆる立場の人々が CoSTEP に集い、CoSTEP で科学技術コミュニケーションを学んでいきます。そしてこの多様性こそ、柔らかく、しなやかに CoSTEP が持続してきたゆえんです。

20 周年を機に、この多様性を活かしたイベントを企画しました。それが 20 周年記念イベント「CoSTEP 宣言」です。2025 年 8 月 30 日・31 日で開催されるイベントでは、全国各地から修了生が一堂に集い、科学技術コミュニケーションのこれまでとこれからを考え、CoSTEP の修了生だからこそ作れる科学技術コミュニケーションのマニフェスト、CoSTEP 宣言を制作します。イベントに際して、20 年間の記録を新聞としてまとめてみました。今までの歩みを踏まえ、今後の CoSTEP を描いてみましょう。

お手元に 20 年間の写真をお持ちの方は CoSTEP までご連絡ください。



この新聞は
みなさんと一緒に作る
アーカイブです。

各種情報配信は grads の
メーリングリストから
SciBaco の掲示板に
移行しました (2025.08~)



本新聞は二次元コードから
ダウンロードできます。





CoSTEP (コーステップ)
科学技術コミュニケーション教育研究部門
Communication in Science & Technology Education & Research Program

ロゴと音楽



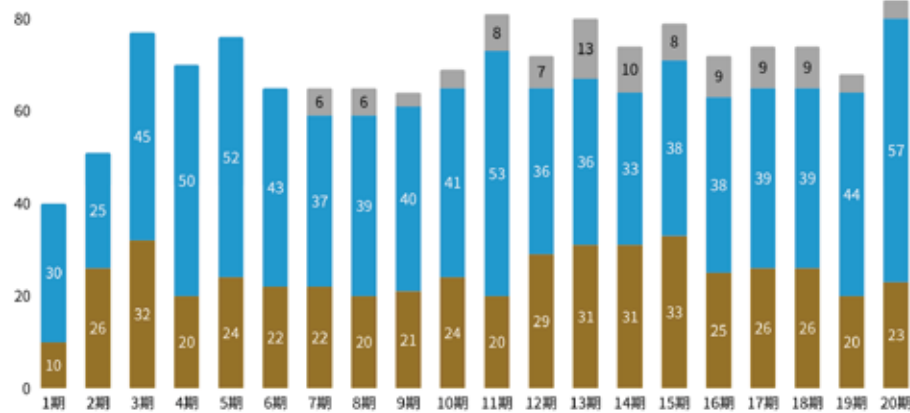
CoSTEP のロゴはデザイナーの佐々木 真由子さんによって制作されました。テーブルを囲んで人が集まる／雪の結晶／CoSTEP の C などを意味を込めています。2025 年現在もイベントで使用している音楽「ボラリス」も CoSTEP を象徴するものです。

オフィス移転

2005 年から 5 年間は理学部にあった CoSTEP オフィスは、2010 年 8 月より高等教育推進機構に移転して、現在に至ります。CoSTEP オフィスがある建物の入口には、CoSTEP の看板が貼られています。

2025 年 3 月に修了した 20 期までの修了者数

● 本科 ● 選科 ● 研修科



1400

研修科の誕生

2011 年度から本科と選科に加えて、研修科が始まりました。当時の募集要項には「本科や選科を既に修了した方で、自ら主体的に実践や研究を企画し実行する意欲と能力がある方なら、どなたでも受講を申し込むことができます。」と書かれています。現在は継続期間は 3 年までとして活動しています。

JJSC



CoSTEP では科学技術コミュニケーションをテーマにした査読付きのオープンオンラインジャーナル『科学技術コミュニケーション (JJSC)』を 2007 年 3 月に創刊してから現在まで発行し続けています。2025 年 8 月には CoSTEP20 周年記念として 37 号を出版します。

大学院授業が始まる

2010 年 9 月に、大学院共通科目「科学コミュニケーション」を開講しました。2025 年現在、「大学院生のためのセルフプロモーションⅠ、Ⅱ」、「大学院生のための研究アウトリーチ法」、「人文社会科学 アートで現代を考える」の他、不定期で HSI(Hokkaido Summer Institute) も開講しています。

いいね！北大誕生



北大の「今」をリアルタイムで発信するために Facebook ページ「いいね！北大」を 2012 年 10 月にオープンしました。続いて 2014 年 9 月には、アーカイブサイト「いいね！Hokudai」もオープンしました。2025 年現在も運営を続けています。

CoSTEP ウェブサイトのリニューアル

CoSTEP の多様な活動を発信するウェブサイトは、これまでに 3 回のリニューアルを重ねています。また、ドメインも @costep.hucc.hokudai.ac.jp から open-ed に変更され、現在は @open-ed.hokudai.ac.jp を使っています。

受講料の変遷

2005~2009 年度は、教材費として 本科 20,000 円、選科 10,000 円、2010 年度~2024 年度は本科 48,000 円、選科 23,000 円、北海道大学に在学中の方は、本科 20,000 円、選科 10,000 円。2025 年度からは北海道大学に在学中の方は本科 74,000 円、選科 74,000 円、北大生以外の方は本科 192,400 円、選科 162,800 円となっています。

受賞



「触媒としてのサイエンス・カフェ札幌～北海道大学 高等教育推進機構 科学技術コミュニケーション教育研究部門 (CoSTEP) の 10 年間の取り組み～」により 2015 年 Good Design Award を受賞しました。

MOOC 制作 / 配信



2018 年には CoSTEP の講師陣による無料のオンライン講座 (MOOC) 「ようこそ、科学技術コミュニケーション」を、オープンエデュケーションセンター e-learning 部門と協働で制作・配信しました。

10 周年と 15 周年

開講 10 周年では、記念冊子制作、アーカイブ制作などを行って祝いました。15 周年を記念する「考 STEP」は新型コロナウイルスの流行で対面での実施からオンラインへ切り替え、規模を縮小して実施しました。また、「15」にまつわる古今東西の事物を羅列して 15 事典を 100 項目配信しました。

かがく探検隊 コーステップ



CoSTEP が制作したことも科学バラエティ番組。小学生リポーターが研究者にインタビュー、昔からのことわざをサイエンスで解説、気になる科学ニュース、季節の天文コラムなど盛りだくさん。2005 年 10 月に #1 をはじめ、2015 年 2 月の #208 まで配信しました。現在もアーカイブで視聴可能です。

学外連携

CoSTEP が所属するオープンエデュケーションセンター (OEC) は、札幌文化芸術交流センター SCARTS が属する札幌市民交流プラザと 2020 年度から連携協定を締結し、札幌市におけるアートと科学の連携に向けて活動しています。また、2024 年からは OEC と公益財団法人札幌市公園緑化協会との連携協定を締結し、月寒公園をはじめとする公園緑地との協働の機会を拡大し、実践、教育、研究を推進しています。

書籍

『北大キャンパスガイド』（北海道大学 CoSTEP・北海道大学総務企画部広報課・北海道大学生協同組合編、北海道大学出版会、2021）をはじめ、『サイエンスコミュニケーションとアートを融合する』（奥本素子・仲居怜美・朴炫貞・室井宏仁、ひつじ書房、2023）『まだ見ぬ科学のための科学技術コミュニケーション 社会との共創を生み出すデザインと実践』（奥本素子・種村剛、共同文化社、2023）、出版予定の『外来種がいなくなったらどうなるの？ SF 思考で環境問題を考える』（宮本進人・古澤正三編著、Kaguya Books）など、CoSTEP での活動をまとめた数多くの出版物があります。また 20 周年を記念し新たに 2 冊の書籍を出版します。

学内連携

北方生物圏フィールド科学センター、ダイバーシティ・インクルージョン推進本部、技術支援本部、化学反応創成研究拠点 (ICReDD)、ワクチン研究開発拠点 (IVReD) など、多様な学内内部局と連携し、活動を進めています。

選科 C の誕生

本科実習は年によって色々な変化がありましたが、選科集中演習の大きな変化として、2023 年度から、デザインを集中して学べる選科 C を開講しました。3 日間でインフォグラフィックを制作するコースで、サイエンスイベント制作の選科 A、サイエンスライティングの選科 B に続き、開講以来人気の選科コースになっています。

クリエイト基金



2018 年度から CoSTEP の活動を応援していただく仕組みとして「CoSTEP クリエイト基金」を立ち上げ、皆さんから寄付という形でご支援を募っています。お寄せいただいた支援は、科学技術コミュニケーションの育成、実践、研究に活用させていただきます。ぜひご寄付ください。

SciBaco.net



2022 年、科学技術コミュニケーションのデータベース「SciBaco.net」がオープンしました。また CoSTEP の知見を活用して起業した北大発スタートアップ企業、株式会社 SciBaco (サイバコ) も同年にスタートしました。サイエンスコミュニケーションのみなさん、ぜひご登録ください。

サイエンス・カフェ 札幌のロゴ

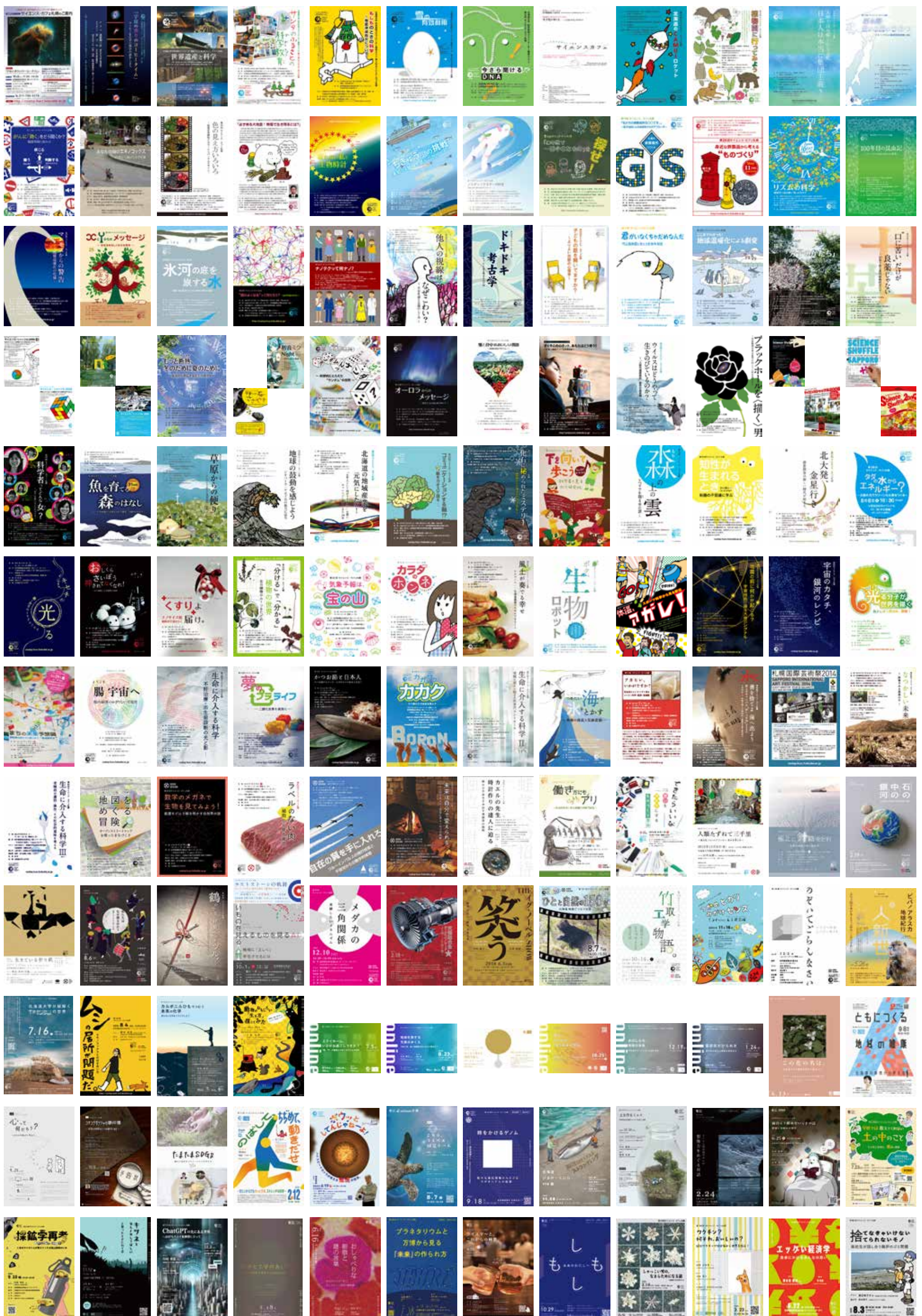


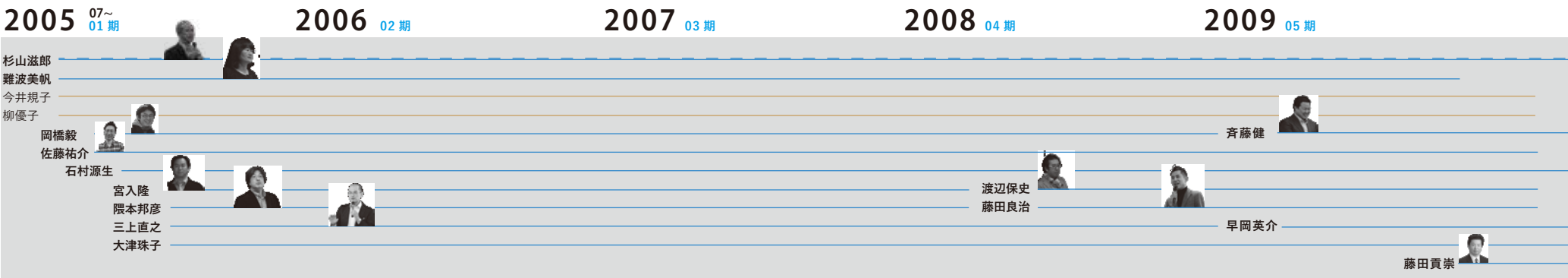
20 年間継続しているサイエンス・カフェ札幌。ロゴはより簡潔にオンライン媒体での使用を考慮したリニューアルを経ています。新型コロナウイルス流行の時代には、オンライン用のカフェロゴを制作し、オンライン配信に合わせた横型チャットフォーマットを統一しました。

単位認定

CoSTEP プログラムは、2025 年度から履修証明プログラムとして認定されることになりました。本プログラムを修了すると、北海道大学から学校教育法に基づく履修証明書が発行されます。また大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムである「職業実践力育成プログラム」(BP) として文部科学省の認定を受けています。

サイエンス・カフェ札幌のチラシ一覧 2005 年度準備回から 2025 年 8 月開催の 142 回まで





講義科目1（科学技術コミュニケーション理論）
科学技術コミュニケーション基礎論
杉山滋郎 / 理学研究科 教授
科学データはどう伝えられているか
隈本邦彦 / 北海道大学 CoSTEP 特任教授
科学技術コミュニケーションと言語表現
山下好孝 / 留学生センター 助教授
情報技術と科学技術コミュニケーション
松王政浩 / 静岡大学情報学部 助教授
高等教育機関と科学技術コミュニケーション
小笠原正明 / 高等教育機能開発総合センター 教授
リスクコミュニケーション (1)
石原孝二 / 文学研究科 助教授
リスクコミュニケーション (2)
石原孝二 / 文学研究科 助教授

講義科目2（科学技術とメディア）
科学技術ジャーナリズムⅡ (1)
粥川準二 / フリージャーナリスト
科学技術ジャーナリズムⅡ (2)
粥川準二 / フリージャーナリスト
科学技術ジャーナリズムⅠ
新聞の科学報道：全国紙と地方紙 (1)
吉田典之・稲塚寛子 / 読売新聞記者・北海道新聞記者
新聞の科学報道：全国紙と地方紙 (2)
吉田典之・稲塚寛子 / 読売新聞記者・北海道新聞記者
マーケティング論からみた科学技術コミュニケーション
小早川護 / 国際広報メディア研究科 教授

講義科目3（科学技術と社会）
体験の場としての科学館展示
石村源生 / 北海道大学 CoSTEP 助教授
科学館と科学技術コミュニケーション
吉田春雄 / 札幌市青少年科学館 学芸課長
職業としてのサイエンスライター
難波美帆 / 北海道大学 CoSTEP 特任助教授
コミュニティ放送と科学技術コミュニケーション
加藤知美 / NPO 法人さっぽろ村コミュニティ工房 理事
「わかりやすく」話す技法
松崎霜樹 / 元アナウンサー、株式会社さっぽろラジオ取締役
科学技術コミュニケーションと公共政策
吉田文和 / 公共政策大学院 教授
科学技術コミュニケーションと市民参加
三上直之 / 北海道大学 CoSTEP 特任助教授

講義科目1（科学技術コミュニケーション理論）
科学技術倫理 (1) 蔵田伸雄 / 文学研究科 助教授
科学技術倫理 (2) 蔵田伸雄 / 文学研究科 助教授
理科教育と科学技術コミュニケーション 鈴木誠 / 高等教育機能開発総合センター 教授
大学博物館と科学技術コミュニケーション 天野哲也 / 大学博物館 助教授
工学における創発教育と科学技術コミュニケーション 恒川昌美 / 工学研究科 教授

講義科目2（科学技術とメディア）
科学技術政策とメディア (1)
埴岡健一 / 日経メディカル編集委員、東京大学特任助教授
科学技術政策とメディア (2)
埴岡健一 / 日経メディカル編集委員、東京大学特任助教授
科学技術コミュニケーションにおける大学出版会の役割
前田次郎 / 北海道大学図書刊行会 編集者
科学図書出版の現状
松尾義之 / 元日経サイエンス副編集長、白日社編集長

講義科目3（科学技術と社会）
自治体における科学技術コミュニケーション
藤田哲男 / 札幌市環境局環境事業部 ごみ減量推進課長
科学技術と市民参加実践法
松井博和 / 農学研究科 教授

科学技術コミュニケーション概論Ⅰ
杉山滋郎 / 北海道大学 CoSTEP 代表・理学研究院 教授
科学技術コミュニケーション概論Ⅱ 科学技術データはいまどう伝えられているか
隈本邦彦 / 北海道大学 CoSTEP 特任教授
科学技術コミュニケーション概論Ⅲ
三上直之 / 北海道大学 CoSTEP 特任助教授
科学技術コミュニケーション概論Ⅳ
石村源生 / 北海道大学 CoSTEP 助教授
科学技術コミュニケーション概論Ⅴ 書くってどういうこと？～科学技術コミュニケーションとして～
難波美帆 / 北海道大学 CoSTEP 特任助教授

雑誌ジャーナリズムにおけるサイエンス：フリーランスの視点から 森健 / フリージャーナリスト
なぜ「発展途上国」ができたのか：アフリカが「アフリカ」になったわけ
石弘之 / 北海道大学公共政策大学院 特任教授

科学技術と市民参加
宮内泰介 / 北海道大学文学研究科 助教授
トランスサイエンス各論Ⅰ 科学技術とリスク①
リスク・コミュニケーション
吉川肇子 / 慶応義塾大学工学部 助教授
トランスサイエンス各論Ⅰ 科学技術とリスク②
仲谷内一也 / 帝塚山大学心理福祉学部 教授
トランスサイエンス各論Ⅰ 科学技術とリスク③
多層構造の現象として 山岸みどり / 北海道大学高等教育機能開発総合センター 教授
トランスサイエンス各論Ⅱ GMO問題①
宮入隆 / 北海道大学 CoSTEP 学術研究員
トランスサイエンス各論Ⅱ GMO問題②
久野秀二 / 京都大学大経済学部 助教授
トランスサイエンス各論Ⅱ GMO問題③
松井博和 / 北海道大学農学研究院 教授
科学リテラシー：科学リテラシーとは？現代人にとって科学知識は必要か
小野寺彰 / 北海道大学理学研究院 教授
モデルによる説明 細川敏幸 / 北海道大学高等教育機能開発総合センター 助教授
病理医が取り組む院内感染
堤寛 / 藤田保健衛生大学 教授
病気とともに前向きに生きる
藤本栄 / 愛ライフ有限公司 社長
環境ホルモン問題の本質
堀口敏宏 / 国立環境研究所 総合研究官
薬害はなぜなくならないか
浜六郎 / NPO 法人医薬ビジランスセンター 理事長
医療統計をどう読み取るか
坪野吉孝 / 東北大学 教授
リスクコミュニケーション 石原孝二 / 北海道大学文学研究科 / 創成科学共同研究機構 助教授
認知心理学からみた学び① 市川伸一 / 東京大学 教授
認知心理学からみた学び② 市川伸一 / 東京大学 教授
NPO マネジメント 高木晴光 / NPO 法人ねおす 代表
科学とデザイン 原田一朗 / ハラダデザイン 主宰
ニセ科学に立ち向かう 菊池誠 / 大阪大学 教授
情報技術と科学技術コミュニケーション
松王政浩 / 北海道大学理学研究院 教授
科学技術コミュニケーションとメディア戦略
森影依 / インテリジェント・リンク 社長
情報デザイン 須永剛司 / 多摩美術大学 教授
市民の情報発信支援 小林りか / OurPlanet-TV 代表
トランスサイエンス各論Ⅲ ナノテク①
徳本洋志 / 北海道大学電子科学研究所 教授
トランスサイエンス各論Ⅲ ナノテク②
黒田光太郎 / 名古屋大学 教授
トランスサイエンス各論Ⅲ ナノテク③
藤本良伺 + 徳本・黒田 / 創成科学共同研究機構 リサーチアシスタント
地震防災と科学コミュニケーション
福和伸夫 / 名古屋大学 教授
大学と地域の連携
谷正史 / 金沢工業大学工学設計教育センター 次長
天文研究とアウトリーチ活動
森淳 / 北海道大学 非常勤講師

どう伝える？”数学”という抽象的なもの・好奇心+共感力+発信力
秋山仁・元村有希子 / 東海大学教育研究所 教授・毎日新聞社科学環境部 記者

科学技術コミュニケーション入門 (1) ～サイエンス・カフェを中心に～
三上直之 / 北海道大学 CoSTEP 特任准教授
科学技術コミュニケーション入門 2
石村源生 / 北海道大学 CoSTEP 准教授
科学技術ジャーナリズムと科学技術コミュニケーション 隈本邦彦 / 北海道大学 CoSTEP 特任教授
(科学技術) コミュニケーション入門
難波美帆 / 北海道大学 CoSTEP 特任准教授
CoSTEP が目指すもの
杉山滋郎 / 北海道大学 CoSTEP 代表・理学研究院 教授
いまなぜ科学技術コミュニケーション？～STS 研究者の観点から 小林傳司 / 大阪大学コミュニケーションデザインセンター 教授
社会と科学技術の対話 一世間システムの転換期ー 有本建男 / 日本科学技術振興機構社会技術開発センター 長
科学ジャーナリズムの現状と課題 新聞社の場合
北村行孝 / 読売新聞東京本社科学部長
科学ジャーナリズム (その現状と課題) 仮説の検証・ドキュメンタリー ～「白い送電線」を例に～
小出五郎 / 日本科学技術ジャーナリスト会議 会長
「メディア・ドクター実証実験」から見たこと
埴岡健一 / 日経メディカル編集委員

トランス・サイエンス概論 平川秀幸 / 大阪大学コミュニケーションデザインセンター 准教授
地球温暖化をめぐる科学と社会 宗像慎太郎 / 三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社 研究員
再生医療と人体の資源化
粥川準二 / フリーランスジャーナリスト・ライター
科学教育 堀亨 / 千葉県立千葉高等学校 教諭
チャーリー西村とコーステップ チャーリー西村 / サイエンスエンターテイナー / 米村でんじろうサイエンスプロダクション
科学教育と科学コミュニケーションー科学教育の目的の変遷からー
小川正賢 / 神戸大学人間発達環境学研究所 教授
「伝える」って、どういうこと？
長谷川一 / 明治学院大学文学部芸術学科 准教授
ドキュメンタリー映画の現場から 鎌仲ひとみ / 映画監督 / 東京工科大学メディア学部助教授

エゾシカをめぐる諸問題：生物多様性保全と狩猟、そして 有効活用 ～闘争的共存時代の幕開け～ 鈴木正嗣 / 岐阜大学 教授
市民との原子力問題対話からー工学研究者の Social Learning 北村正晴 / 東北大学未来科学技術共同研究センター 客員教授
ものづくりの現場から 原田一朗 / 建築家 (ハラダデザイン有限責任事業組合ファクトリープロジェクト)
科学と社会の コミュニケーション / ミスコミュニケーションーBSE 問題を題材にー 神里達博 / 科学技術振興機構社会技術開発センター フェロー
科学技術への市民参加 1
三上直之 / 北海道大学 CoSTEP 特任准教授
科学技術への市民参加 2ー原子力政策大綱策定への参加経験からー
西尾漢 / NPO 法人・原子力資料情報室共同代表
科学技術への市民参加 3
萩原なつ子 / 立教大学 准教授
南波直樹 / 理化学研究所 CDB 広報国際化室
技術者の倫理とその教育 価値の共有による技術者倫理教育 札野順 / 金沢工業大学 基礎教育部 修学基礎教育課程 教授
学術コミュニケーションの現状
土屋俊 / 千葉大学 教授
ムーミンに学ぶ世界ーの教育 池田文人 / 北海道大学高等教育機能開発総合センター 准教授
科学技術と文化 ヤマハと浜松市の事例をもとに 桧森隆一 / ヤマハ株式会社
インターネットにおける コミュニケーション文化の変遷 水野貴明 / 株式会社はてな (科学と美学、技術と芸術)
栗野由美 / 東京造形大学 准教授

科学技術と社会
杉山滋郎 / 北海道大学 CoSTEP 代表・理学研究院 教授
科学技術コミュニケーションと公共性
三上直之 / 北海道大学 高等教育推進機構 特任准教授
トランスサイエンスの基本的構造
難波美帆 / 北海道大学 CoSTEP 特任准教授
グラフィックデザインの基礎
大津珠子 / 北海道大学 CoSTEP

通店と緩和 ー社会科学の立場からー
吉田文和 / 北海道大学 公共政策大学院 教授
地球温暖化問題の成り立ち
増田耕一 / 海洋研究開発機構地球環境フロンティア研究センター水循環プログラム サプリダー
プレゼンテーション 石村源生・藤田良治 / 北海道大学 CoSTEP 准教授・特任助教

NPO・政府・企業間の戦略的協働
小島廣光 / 北海道大学大学院経済学研究科 教授
現代における学習環境のデザインー実践的な学びについて考えるー 長岡健 / 産業能率大学 教授
人を活かす IT 活用・製造業、農業、小売業の現場からー 神成淳司 / 慶應義塾大学 SFC 講師
統計リテラシーと意思決定 細川敏幸 / 北海道大学 高等教育機能開発総合センター 教授
医療における方針選択とリスク
櫻井恒太郎 / 北海道大学名誉教授
食の安全・安心とリスクコミュニケーション
宮入隆 / 秋田県立大学生物資源科学部 アグリビジネス学科 助教
広報戦略
杉田敏 / 株式会社ブラップジャパン 代表取締役社長
情報デザインそしてセンスウェア
渡辺保史 / 北海道大学 CoSTEP
予防原則の合理性
松王政浩 / 北海道大学理学研究院 教授

ファンディングエージェンシーから見る科学技術コミュニケーション活動
前田義幸 / 科学技術振興機構理解増進部 部長
理系のキャリアデザイン
柊内新 / 北海道大学理学研究院 准教授
科学ジャーナリズム
隈本邦彦 / 北海道大学 CoSTEP 客員教授 / 江戸川大学メディアコミュニケーション学部教授

産業界が理工系人材に求める基礎スキル
丸山正明 / 日経 BP 社編集委員
地域社会の課題解決と科学技術コミュニケーションの関わり
敷田麻実 / 北海道大学観光学高等研究センター 教授
研究者のアウトリーチ活動
信濃卓郎 / 北海道農業研究センター 研究員
科学技術コミュニケーションとマーケティング論 小早川護 / 北海道大学国際広報メディア・観光学院 教授
社会企業における事業戦略
竹内よし子 / えひめグローバルネットワーク 代表

廃棄物再資源化の課題と科学技術コミュニケーション
恒川昌美 / 北海道大学大学院工学研究科 教授
大学博物館の活動から科学技術コミュニケーションを考える 天野哲也・湯浅万紀子 / 北海道大学総合博物館 教授・准教授
市民にとって必要な科学リテラシーとは何か 北海道大学における科学リテラシー
小野寺彰 / 北海道大学理学研究院 教授

はじめよう！科学技術コミュニケーション
杉山滋郎 / 北海道大学 CoSTEP 代表・理学研究院 教授
実践入門
三上直之 / 北海道大学 高等教育推進機構 准教授

科学技術コミュニケーションと公共性
三上直之 / 北海道大学 高等教育推進機構 准教授
科学技術コミュニケーションと科学リテラシー：PISA 調査を考える 小林傳司 / 大阪大学コミュニケーションデザインセンター 教授
科学技術コミュニケーション入門
杉山滋郎 / 北海道大学 CoSTEP 代表・理学研究院 教授

ソーシャルエンタープライズ
井上英之 / 慶応義塾大学 SFC 講師
科学技術に対するリスク認知
中谷内一也 / 同志社大学心理学部 教授
「プロジェクト」をめぐるーー建築設計からの示唆 本江正茂 / 東北大学大学院工学研究科 准教授
問題解決
河瀬誠 / 株式会社アクセル シニアマネージャー

関係性を育むためのデザイン 西村佳哲 / 有限会社リビングワールド 代表 / プランニング・ディレクター
サイエンスの映像表現 鈴木貴靖 / NHK エンタープライズ 自然・科学番組エグゼクティブプロデューサー
「科学技術コミュニケーション」の新しい可能性ー Deliberative Opinion Poll に学ぶー
柳瀨昇 / 信州大学全学教育機構 講師 / 慶應義塾大学総合政策学部 非常勤講師
情報環境アーキテクチャのゆくえ
濱野智史 / 株式会社日本芸芸 リサーチャー
北海道の遺伝子組換え問題について
松井博和 / 北海道大学農学研究院 教授
幹細胞技術と人体の資源化
粥川準二 / フリーランスジャーナリスト・ライター
現代社会を生き抜くための「統計思考力」を鍛えよう 神永正博 / 東北学院大学工学部電気情報工学科 准教授

環境問題と科学技術コミュニケーション
柳下正治 / 上智大学大学院地球環境学研究科 教授
理科教師は、サイエンス・コミュニケーションになり得るか？ー日本の理科教育再生のためにー 鈴木誠 / 北海道大学理学院自然科学専攻 高等教育機能開発総合センター 教授

科学ジャーナリズムの現状と課題
隈本邦彦 / 北海道大学 CoSTEP 客員教授 / 江戸川大学メディアコミュニケーション学部教授
ファンディングエージェンシーから見る科学コミュニケーション活動
前田義幸 / 科学技術振興機構
アーティストとしての科学技術
八谷和彦 / メディアアーティスト
イノベーション政策の立場から見たコミュニケーション
坂田一郎 / 東京大学政策ビジョン研究センター 教授
大学法人のコミュニケーション戦略
赤羽良剛 / プレーン・フォーラム株式会社 代表
リビングサイエンス
古田ゆかり / ことば工房プロデューサー
持続可能な 地域・社会・未来を 創るための市民活動
竹内よし子 / NPO 法人えひめグローバルネットワーク
「アースコミュニケーション」を育てるために
上田 壮一 / 株式会社スペースポート 取締役社長
社会起業家としての実践と考え方
片岡勝 / プレスオルタナティブ 代表
知識科学と科学技術コミュニケーション 池田文人 / 北海道大学高等教育機能開発総合センター 准教授
科学コミュニケーションと社会心理学ー社会的リテラシーを考えるー 山岸みどり / 北海道大学高等教育機能開発総合センター 教授
科学技術コミュニケーションと / の倫理 新田孝彦 / 北海道大学大学院文学研究科 倫理学講座 教授
科学ジャーナリズムは社会を変え得るか 藤川大之 / NHK エデュケーションル科学健康部・統括部長

本科実習	グラフィックデザイン 広報メディア企画・制作 映像表現 ラジオ番組制作
選科	A
集中演習	B



本科実習	広報メディア企画・制作 「科学館通信」企画・制作 音声・映像メディア グラフィックデザイン サイエンス・カフェ
選科	A
集中演習	B



杉山滋郎

近藤裕子

竹本寛秋

鳥羽妙

斉藤健

石村源生

早岡英介

大津珠子

藤田貢崇

阿川裕圭

川本思心

藤田知子

出村沙代

松王政浩

内村直之

郡仲子



ネットの上に学びの場を
創る 新井紀子 / 国立情報学
研究所・教授



アカデミズムと社会 ～社会とのコミュニケー
ションの在り方について未来を展望する～
白川英樹 / 筑波大学 名誉教授



科学（？）エンタメ番組：すイエんサーと科学
コミュニケーション 村松秀氏 / NHK エデュケー
ショナル 科学健康部 シニアプロデューサー



わかりあえないことから
平田オリザ / 劇作家・演出
家



カガクするココロを育て
る『デザインあ』の挑戦
佐藤正和 / NHK エデュケー
ショナル こども幼児部主任プ
ロデューサー



今なぜ科学技術コミュニケーション？

杉山滋郎 / 北海道大学 CoSTEP 代表・理学研究院 教授

実践入門

三上直之 / 北海道大学 高等教育推進機構 准教授

科学技術と社会をつなぐ「対話」のデザイン

八木絵香 / 大阪大学 コミュニケーションデザイン・セン
ター 特任准教授

理科教育・科学教育と科学技術コミュニケーション：
その接点と連携の可能性を探る

山口悦司 / 神戸大学大学院人間発達環境学研究所 准教授

非営利活動における広報・マーケティング・シ
ティプロモーションと方法と評価を素材にー

河井孝仁 / 東海大学文学部広報メディア学科教授

科学技術についての『語り』を分析する

山口富子 / 国際基督教大学准教授

科学技術コミュニケーション実践の評価手法

佐々木亨 / 北海道大学大学院文学研究科

情報デザインからフューチャーデザインへ

渡辺保史 / 北海道大学 CoSTEP 客員准教授

ワールド科学を映像で表現する 横須賀孝弘

/NHK エンタープライズ自然・科学番組エグゼクティブ・
プロデューサー

学習環境のデザインに向けて

山内祐平 / 東京大学大学院情報学環 准教授

自然保護地域の科学的・順応的管理と地域社会

則久雅司 / 環境省創設自然環境事務所

ダム問題で学んだことー専門家と市民のコミュニ
ケーション 高橋ユリカ / フリーライター

科学技術と社会の調和を目指してーテクノロ
ジーアセスメントと新たな社会意思決定プロセ
スを考えるー 鈴木達治郎 / 内閣府原子力委員会 委員
長代理 / 東京大学公共政策大学院 客員教授

地域振興における科学技術の役割 木場保洋

/ 北海道総合政策部科学 I T 振興局科学技術担当局長

『理科離し』を超えてー地域における理科教育の
可能性ー 渡辺耀輝 / 市立函館高等学校 理科教諭

大学と産業界のキャズムを超える

吉井伸一郎 / サイジニア株式会社 CEO

伝え方、伝える仕組みを考える

朝倉卓也 / 円山動物園

学問を生かす社会へーウェブが架橋する社会と
学問 岡本真 / アカデミック・リソース・ガイド株式会
社代表取締役

日本で唯一の森の学校「森林文化アカデミー」

玉木一郎 / 岐阜県立森林文化アカデミー教員

『共感』と『行動』を促す社会活動の仕組み

草野竹史 / 環境 NGO ezorock 代表理事

サイエンスノードの実例から見るコミュニケー
ターが社会で役割を果たすために必要な実践的
手法 岩城邦典 / scienceNODE

風景を創り出すデザインとまちづくり活動

斉藤浩二 / (株) KITABA 代表取締役会長

科学技術コミュニケーションのビジネス化の可
能性

松田一敬 / 北海道ベンチャーキャピタル株式会社社長

デザインを通じたコミュニケーション

山岸正美 / (株) マーケティング・コミュニケーション・
エルグ代表取締役

はじめよう！科学技術コミュニケーション

杉山滋郎 / 北海道大学 CoSTEP 代表・理学研究院 教授

実践入門 石村源生 / 北海道大学 CoSTEP 准教授

科学技術は誰のものか 平川秀幸 / 大阪大学コミュ
ニケーションデザインセンター准教授

参加と対話の科学技術コミュニケーション

三上直之 / 北海道大学 高等教育推進機構 准教授

科学教育と科学技術コミュニケーション

四方周輔 / 東海大学札幌教養教育センター

システム方法論で考える参加型対話手法

田原敬一郎 / 財団法人未来工学研究所 政策科学研究セ
ンター・研究員

ウェブ時代のメディアリテラシー

荻上チキ / 評論家

コミュニケーションとマーケティング・マインド

伊藤直哉 / 北海道大学大学院国際広報メディア・観光学
院教授

情報デザイナー対話と共創の技術の可能性

渡辺保史 / 北海道大学大学院地球環境科学研究院

/GCOE 上級コーディネーター

インストラクショナルデザイン（教授法）の基礎

鈴木克明 / 熊本大学大学院社会文化科学研究科 教授

シックプライドと地域の編集 柴平伸子 /
日本デザインセンター／チーフ・プロデューサー

科学ジャーナリズムの現状と課題 隈本邦彦 / 江
戸川大学メディアコミュニケーション学部 教授

大学広報と科学コミュニケーション

横山広美 / 東京大学大学院理学系研究科・准教授

リビング・サイエンスの視点を取り入れていろ
うな表現を考えよう 古田ゆかり / 北海道大学
CoSTEP 特任准教授

地球環境問題における『連携』『協働』の重要性

山中康裕 / 北海道大学大学院環境科学科 教授

ロボットを通じた地域社会との連携

田中孝之 / 北海道大学大学院情報科学研究科准教授

科学者と「価値」の問題

松王政浩 / 北海道大学大学院理学研究院教授

企業CSRにおける実験ワークショップ制作と
実施 高倉弘二 / 株式会社ジェイベック 若松環境研究所

若手研究者のキャリアパスを考える

榎木英介 / 近畿大学医学部講師

日本の惑星探査機

渡部重十 / 北海道大学大学院理学研究院教授

地域における科学技術イベントの戦略と文脈

永井智哉 / 筑波大学 / 東京国際科学フェスティバル総合
プロデューサー

研究者のアウトリーチ活動 信濃卓郎 / 北海道農業
研究センター 生産環境研究領域 上席研究員

理科ハウスへようこそ 森裕美子 / 理科ハウス館長

地域での ICT 活用教育支援のための科学技術コ
ミュニケーターの役割 小松川浩 / 千歳科学技術大学

CGM を駆使した地域活性化へ向けて

伊藤博之 / クリプトン・フューチャー・メディア取締役

市民参加型のまちづくりを考える

神長敬 / (株) KITABA 取締役副社長

実践入門 石村源生 / 北海道大学 CoSTEP 准教授

参加と対話の科学技術コミュニケーション 三上

直之 / 北海道大学 高等教育推進機構 准教授

市民の科学・技術リテラシーとは何か、また何
であるべきか

戸田山和久 / 名古屋大学情報科学研究科教授

これからの防災教育のあり方を考える

矢守克也 / 京都大学防災研究所

パブリックスピーキング入門 薩山洋介 / スピー
チライター／パブリックスピーキング・コーチ／舞台演出
家／スピーチ評論家

ファシリテーションの本質とテクニック 長尾彰
/ ナガオ考務店 / エデュケーション・センター

情報デザイナー対話と共創の技術の可能性 渡辺

保史 / 東海大学国際文化学部デザイン文化学科客員教授

ソーシャルメディアの現在とゲーミファイ
ケーションの可能性

深田浩嗣 / 株式会社ゆめみ 代表取締役社長

批判的思考力を身につける

楠見孝 / 京都大学大学院教育学研究科

オープンエデュケーションと教育の未来

飯吉透 / 京都大学高等教育研究開発推進センター教授

トランスサイエンスとメディア空間ーサイエン
ス・メディア・センターの試みからー 田中幹人
/ 早稲田大学政治学研究科・准教授

政策過程における科学的情報の利用：共同事実
確認

松浦正浩 / 明治大学 専門職大学院 ガバナンス研究科

科学技術のリスクと科学技術コミュニケーター

蔵田伸雄 / 北海道大学大学院文学研究科 教授

科学計量学と科学コミュニケーション

調麻佐志 / 東京工業大学大学院理工学研究科

プログラム評価の基本的な考え方

安田節之 / 西武文理大学サービス経営学部

科学技術コミュニケーションに活かすプロジェ
クトマネジメント 白井久美子 / 日本ユニシス (株)

科学技術ジャーナリズム 隈本邦彦 / 江戸川大学メ
ディアコミュニケーション学部教授

“学問”という表現、“面白論文”という表象、“科
学の表情”サンキュータソ / 一橋大学非常勤講師

学内連携を目指した異分野融合ダイナミクス

宮野公樹 / 京都大学学際融合教育研究推進センター准教
授・総長学事補佐

クライシスにおける研究者の情報発信

早野龍五 / 東京大学理学系研究科 教授

障がい者への就労支援の取り組み

加納尚明 / NPO 法人 札幌チャレンジ

産学官連携によるイノベーション創出の理論

内田純一 / 北海道大学観光学高等研究センター

科学技術コミュニケーションは、何をめざすのか

杉山滋郎 / 北海道大学 CoSTEP 代表・理学研究院 教授

参加と対話の科学技術コミュニケーション 三上

直之 / 北海道大学 高等教育推進機構 准教授

実践入門 石村源生 / 北海道大学 CoSTEP 准教授

社会の中での科学技術コミュニケーターの役割

隈本邦彦 / 江戸川大学メディアコミュニケーション学部
教授

映像表現を科学技術コミュニケーションに生か
す 早岡英介 / 北海道大学 CoSTEP 特任講師

プレゼンテーションの考え方

石村源生 / 北海道大学 CoSTEP 准教授

サイエンスライティングの基本

古田ゆかり / フリーライター / 編集者

グラフィックデザインの基礎

大津珠子 / 北海道大学 CoSTEP 特任准教授

現代における「ワークショップによる学び」の

あり方 菊宿俊文 / 青山学院大学 社会情報学部 社会情
報学科 教授

現代社会における『大人の学び』のあり方

長岡健 / 法政大学経営学部

インストラクショナルデザインの基礎：心理学
の側面

向後千春 / 早稲田大学 人間科学学術院 教授

「想定外」が生まれる仕組み、見逃す人たち

添田孝史 / サイエンスライター

情報デザイン 原田泰 / はこだて未来大学

地球温暖化問題の基本的枠組み

江守正多 / 国立環境研究所

ライフサイエンスと社会

加藤和人 / 大阪大学医学系研究科 教授

実践活動を客観化し質向上につなげるためのブ
ログラム評価 安田節之 / 西武文理大学サービス経営
学部准教授

科学技術コミュニケーションに活かすプロジェ
クトマネジメント 白井久美子 / 日本ユニシス株式会
社 / 人事総務部副部長 兼 人材開発室長

ファシリテーターの役割と求められるスキル

青木将幸 / 青木将幸ファシリテーター事務所

企業の社会貢献活動における教育の意義とその

企画及び実践 田村拓 / SCSK グループ

生まれたての研究成果をいかに伝えるかー映像
は心理学のかたまり、なんですー 小林隆司 /
(独) 物質・材料研究機構広報室チーム長

より良い河川管理への実践

根岸淳二郎 / 北海道大学地球環境科学研究院 准教授

政策決定と科学技術コミュニケーション

行政松弘 / 北海道大学

理科教育の立場から見た科学技術コミュニケー
ション 境智洋 / 北海道教育大学釧路校

学際・国際・産学連携によるオープン・イノベー
ション 仙石慎太郎 / 京都大学・物質－細胞統合システ
ム拠点

企画がうまくなる3つのポイント

土岐小百合 / コミュニケーション・アーティスト

企業における科学技術コミュニケーション事例

藁田裕美 / 資生堂 研究広報

まちづくりのためのコミュニケーションデザイ
ン 神長敬 / (株) KITABA 取締役副社長

企業における科学技術コミュニケーション事例

まちづくりのためのコミュニケーションデザイ
ン 神長敬 / (株) KITABA 取締役副社長

企業における科学技術コミュニケーション事例

まちづくりのためのコミュニケーションデザイ
ン 神長敬 / (株) KITABA 取締役副社長

企業における科学技術コミュニケーション事例

まちづくりのためのコミュニケーションデザイ
ン 神長敬 / (株) KITABA 取締役副社長

企業における科学技術コミュニケーション事例

まちづくりのためのコミュニケーションデザイ
ン 神長敬 / (株) KITABA 取締役副社長

企業における科学技術コミュニケーション事例

まちづくりのためのコミュニケーションデザイ
ン 神長敬 / (株) KITABA 取締役副社長

企業における科学技術コミュニケーション事例

まちづくりのためのコミュニケーションデザイ
ン 神長敬 / (株) KITABA 取締役副社長

企業における科学技術コミュニケーション事例

まちづくりのためのコミュニケーションデザイ
ン 神長敬 / (株) KITABA 取締役副社長

企業における科学技術コミュニケーション事例

まちづくりのためのコミュニケーションデザイ
ン 神長敬 / (株) KITABA 取締役副社長

科学技術コミュニケーションの原点と座標軸

石村源生 / 北海道大学 CoSTEP 准教授

実践入門 大津珠子 / 北海道大学 CoSTEP 特任准教授

参加と対話の科学技術コミュニケーション

三上直之 / 北海道大学 高等教育推進機構 准教授

社会の中での科学技術コミュニケーターの役割

隈本邦彦 / 江戸川大学メディアコミュニケーション学部
教授

デザインというプロセスを通した科学コミュニ
ケーション 大津珠子 / 北海道大学 CoSTEP 特任准教授

サイエンスライティングの基礎

内村直之 / フリーライター

情報デザインの基礎 原田泰 / 公立はこだて未来大学

プレゼンテーションの考え方

石村源生 / 北海道大学 CoSTEP 准教授

映像表現を科学技術コミュニケーションに生か
す 早岡英介 / 北海道大学 CoSTEP 特任講師

環境教育～持続可能な社会を目指すコミュニ
ケーション～

増田直広 / 公益財団法人・キープ協会 (KEEP)

オープンエデュケーションと科学コミュニケー
ション 重田勝介 / 北海道大学情報基盤センター

リーダーシップのあり方と学び方について考え
る 日向野幹也 / 立教大学経営学部教授

データから見る科学技術コミュニケーションの
“実態” 川本思心 / 北海道大学 CoSTEP 部門長 / 理学研
究院准教授

創造的なコミュニケーションと コラボレーシ
ョンのための「チャンス発見学」大澤幸生 / 東京大
学システム創成学専攻教授

未来の経験からイノベーションを導く

田村大 / 株式会社リ・パブリック共同代表

“コントロール幻想”時代の医療と、かけがえの
ない“あなた” 児玉真美 / フリーライター／一般社
団法人日本ケアラー連盟 代表理事

感染症の問題から『科学と社会を結ぶ』思考枠
組みを学ぶ

岩田健太郎 / 神戸大学大学院医学研究科 教授

高レベル放射性廃棄物問題の「難しさ」をめぐつ
て 寿染浩太 / 東京電気大学未来科学部 助教

初等・中等教育の多様なステークホルダーを理
解する 寺西隆行 / 株式会社Z会 教材編集部理科課

違うということを知っていればステークホル
ダーとの関係はうまくいくはず。多様性とはルー
ルの違いなんです。 太田稔 / NPO 法人共育
フォーラム・環境共育事務所うてあきに

これまでの科学技術政策立案の反省と今後

石田知子 / 文部科学省大臣官房政策課 評価室長・対話型
政策形成室長・科学技術改革タスクフォース戦略室長

技術の現場から見た科学技術コミュニケーション

小寺昭彦 / フリーコーディネーター／サイエンスカ
クテル

ワークショップ デザイナー “協働化” の手法

井澤友郭 / 一般社団法人公共ネットワーク機構 / 大阪大
学大学院工学研究科招聘研究員

地域住民が野生動物の保全・管理にどう向き合
うか 立澤史郎 / 北海道大学大学院文学研究科

デザインをベースにした市民参加型のまちづく
りを考える 南雲勝志 / NAGUMO DESIGN 代表

地域に対話の場を創造するー当事者として、社
会学者として

五十嵐泰正 / 筑波大学大学院人文社会系准教授

オルタナティブな学術コミュニケーションの場
としての「ニコニコ学会β」、その誕生・成長・未来

江渡浩一郎 / 産業技術総合研究所 主任研究員

企業における科学技術コミュニケーション事例

<

石村源生
大津珠子
早岡英介
川本思心
藤田知子
松王政浩
内村直之
葛西奈津子
村井貴
種村剛
朴炫貞



池田貴子

西尾直樹

古澤輝由

水族館に奇跡を起こす ～科学を「大衆文化」にする逆転の発想～

中村元 / 水族館プロデューサー



奥本素子



科学技術コミュニケーションとは何か 川本思心 / 北海道大学 CoSTEP 部門長 / 理学研究院准教授
事例研究という方法
三上 直之 / 北海道大学 高等教育推進機構 准教授
実践入門 早岡英介他 / 北海道大学 CoSTEP
社会の中での科学技術コミュニケーションの役割
～科学技術ジャーナリストを例に～ 隈本邦彦 / 江戸川大学メディアコミュニケーション学部 教授
科学技術とアートが出会うときー翻訳としての科学技術コミュニケーション
野原佳代子 / 東京工業大学 教授

プレゼンテーションで伝える 古澤輝由・池田貴子 / 北海道大学 CoSTEP 特任助教・博士研究員
サイエンスライティングの基礎
内村直之 / 北海道大学 CoSTEP 客員教授
映像メディアと科学技術コミュニケーション
早岡英介・朴炫貞 / 北海道大学 CoSTEP 特任准教授・特任助教
ウェブデザインのすゝめ 村井 貴・池田 貴子 / 北海道大学 CoSTEP 特任助教・博士研究員

主体的な学びを引き出す「問い」のデザイン
安斎勇樹 / 東京大学大学院 情報学環 特任助教
科学技術コミュニケーションの学び方
種村剛 / 北海道大学 CoSTEP 特任講師
① 社会の中で新しい学びの場を創出する
本間浩輔 / ヤフー株式会社 執行役員／ビーブル・デベロップメント統括部長

プロジェクトマネジメントの基本的な考え方
酒井麻里 / 日本ファシリテーション協会 理事兼副会長
さあ赤色下線がボンチ絵をグイッと占拠して右肩上がりグラフがドーン！～科学技術とイノベーションをデータで「伝える」方法～ 原泰史 / 政策研究大学科学技術イノベーション政策研究センター 専門職
ゲーミングで知る社会のダイナミックス
大沼進 / 北海道大学環境社会心理学研究室 准教授

人工知能は私たちを減ぼすのか - 人とコンピュータの過去・現在・未来 -
児玉哲彦 / Amazon Japan UX Product Manager
ヒト胚を操作する医療を考える
石井哲也 / 北海道大学安全衛生本部 教授
農業技術とデュアルユース
藤原辰史 / 京都大学人文科学研究所
⑥ 6年目の福島からリスクコミュニケーションを考える 小山良太 / 福島大学経済経営学類／うつくしまふくしま未来支援センター・産業復興支援部門 教授・部門長
URA - 大学改革を担う経営マネジメント人材 -
江端新吾 / 北海道大学 URA ステーション
科学祭と『つなぐ人』の実際 金森晶作 / 公立はこだて未来大学研究員・はこだて国際科学祭コーディネーター
心のトーンをあげる環境づくり
吉岡恭子 / 株式会社 ARTCOCO 代表取締役
⑦ 科学ドキュメンタリーに出来ることは
中井曉彦 / NHK ディレクター

地域連携型環境研究プロジェクト『OKEON 美ら森プロジェクト』：そのデザインと実践
吉村正志 / 沖縄科学技術大学院大学 生物多様性・複雑性研究ユニット スタッフサイエンティスト / OKEON 美ら森プロジェクトコーディネーター
『気象予報" 史"』から紐解く、科学技術コミュニケーション論 奥村政佳 / ミュージシャン／気象予報士・保育士、防災士
『紙』が宇宙を創造する手法
前川淳 / 国立天文台 専門研究職員 / 折り紙作家
対話とは何か？ 73 億人と生物と無生物のまなざし、物語ること 福田大展 / 東京大学宇宙線研究所 広報

本科実習	対話の場の創造 ライティング・編集 グラフィックデザイン メディアデザイン 映像メディア 「札幌可視化プロジェクト」	選科 集中演習 B
選科 集中演習 B		

川口佳代



科学技術コミュニケーションとは何か 川本思心 / 北海道大学 CoSTEP 部門長 / 理学研究院准教授
対話のその前に～コミュニケーションのための科学哲学～ 松王政浩 / 北海道大学理学研究院教授
社会の中での科学技術コミュニケーションの役割
～科学技術ジャーナリストを例に～ 隈本邦彦 / 江戸川大学メディアコミュニケーション学部 教授
なぜ人はわかりあえないのか。で、どうする？
西條美紀 / 東京工業大学 環境・社会理工学院 教授

実践入門 村井貴 / 北海道大学 CoSTEP 特任助教
サイエンスライティングの基礎 内村直之 / 北海道大学 CoSTEP 客員教授、科学ジャーナリスト
映像メディアと科学技術コミュニケーション
映像メディアと科学技術コミュニケーション
早岡 英介 / 北海道大学 CoSTEP 特任准教授
プレゼンテーションで伝える 古澤 輝由・池田 貴子 / 北海道大学 CoSTEP 特任助教

科学技術コミュニケーションの学び方
種村剛 / 北海道大学 CoSTEP 特任講師
学習科学から考える科学技術コミュニケーション
大浦弘樹 / 東京工業大学 教育革新センター 准教授
① 主体的な学びを引き出す「問い」のデザイン
安斎勇樹 / 東京大学大学院 情報学環 特任助教

科学技術コミュニケーションのための情報と計画 奥本素子 / 北海道大学 CoSTEP 准教授
マーケティング・コミュニケーションに学ぶ、サイエンス・コミュニケーション 本間充 / アウトブレインジャパン 顧問／アビームコンサルティング 顧問
科学技術コミュニケーションの事例研究
三上 直之 / 北海道大学 高等教育推進機構 准教授
① ゲーミングで知る社会のダイナミックス 大沼進 / 北海道大学環境社会心理学研究室 准教授

情動の脳科学から見たトランスサイエンス～なぜ、科学的な問いは立てられても、科学だけでは答えることができないのか
伊藤浩志 / 脳神経科学者／サイエンスライター
生命科学研究におけるデュアルユース問題
四ノ宮成祥 / 防衛医科大学校 医学教育部医学科
見せて守ることは可能か？野生生物保全のためのコミュニケーションのあり方
愛甲哲也 / 北海道大学大学院農学研究院 教授
① 農業技術とデュアルユース
藤原辰史 / 京都大学人文科学研究所

歴史遺産をめぐる多様な声ー過去にまつわる今日の課題を考える 岡田真弓 / 北海道大学創生研究機構特任助教
現場のチカラで実現する政策ー科学技術の人々の「自分事」にするためにー
伊藤伸 / 政策シンクタンク構想日本
共に生きる社会を願って 三好明子・柴田有花 / 北海道小鳩会 / 北海道大病院 認定遺伝カウンセラー

新たな研究資金獲得を担うファンドレイザーの取り組み 渡邊文隆 / IPS 細胞研究所 所長室 基金グループ長
科学番組を作る視点ー理系文系の壁をこえてー 高山晶子 / NHK ディレクター
技術と芸術を横断するーメディアアートからバイオ・リサーチまでー
津田和俊 / 山口情報芸術センター・研究員
「科学コミュニケーション」は職業にできる？
本田隆行 / 科学コミュニケーション

本科実習	対話の場の創造 ライティング・編集 グラフィックデザイン メディアデザイン 映像メディア 「札幌可視化プロジェクト」	選科 集中演習 B
選科 集中演習 B		

川口佳代



科学技術コミュニケーションとは何か 川本思心 / 北海道大学 CoSTEP 部門長 / 理学研究院准教授
社会の中での科学技術コミュニケーションの役割
～科学技術ジャーナリストを例に～ 隈本邦彦 / 江戸川大学メディアコミュニケーション学部 教授
科学の何を、どのように伝えるのか？そしてどうなるのか？ 池辺 靖 / 日本科学未来館 科学コミュニケーション部門専門主任
科学コミュニケーションの3要素ーその背景と活動事例ー 加納 圭 / 滋賀大学

サイエンスライティングの基礎
内村直之 / 北海道大学 CoSTEP 客員教授
実践入門 朴炫貞 / 北海道大学 CoSTEP 特任助教
映像メディアと科学技術コミュニケーション
早岡 英介 / 北海道大学 CoSTEP 特任准教授
プレゼンテーションで伝える 古澤 輝由・池田 貴子 / 北海道大学 CoSTEP 特任助教

本気で挑戦する科学技術コミュニケーション
荒井優 / 札幌新陽高校 校長
科学技術コミュニケーションの学び方
種村剛 / 北海道大学 CoSTEP 特任講師
科学技術と社会をよく考えるためのシリアスゲーム開発と実践 標葉靖子 / 東京工業大学 助教

科学技術コミュニケーションの事例研究
三上 直之 / 北海道大学 高等教育推進機構 准教授
科学技術コミュニケーションのための情報と計画 奥本 素子 / 北海道大学 CoSTEP 准教授
① マーケティング・コミュニケーションに学ぶ、サイエンス・コミュニケーション
本間 充 / 電通マクロミリンサイト CDO / アウトブレイン 顧問／アビームコンサルティング 顧問

汚染土壌とコミュニケーション
保高徹生 / 産業技術総合研究所
バイオアートとは 高橋洋介 / 金沢 21 世紀美術館アーティスト・キュレーター
トランスサイエンスと科学の境界線 見上公一 / 慶応義塾大学理工学部 外国語・総合教育教室専任講師
① 生命科学研究におけるデュアルユース問題
四ノ宮成祥 / 防衛医科大学校 医学教育部医学科

生きるためのコミュニケーション
後藤 怜亜 / NHK ディレクター
創型人材としての科学技術コミュニケーション
西村勇哉 / 特定非営利活動法人ミラック
社会の中の自然史博物館、社会の中のコミュニケーション 佐久間 大輔 / 大阪市立自然史博物館
① 現場のチカラで実現する政策ー科学技術を人々の「自分事」にするためにー
伊藤伸 / 政策シンクタンク構想日本

映像で科学を形にする
橋本 典久 / 明治大学総合数理学部特任講師
「地域を伝える」→「科学を伝える」→「地域を科学して伝える」とつながった仕事の話
谷 明洋 / (株) オンデザイン「アーバン・サイエンス・ラボ」主任研究員／フリーランス
趣味で楽しむ「日曜数学」コミュニティの広がりに
辻順平 / 東洋大学情報連携学部 助教
一度失ったものを普通のものとするためにー野生復帰最前線における地域の取り組みー
大石 麻美 / 佐渡生きもの語り研究所
CoSTEP の講義を振り返って CoSTEP 教員

本科実習	対話の場の創造 ライティング・編集 メディアデザイン 映像デザイン グラフィックデザイン 「札幌可視化プロジェクト」	選科 集中演習 B
選科 集中演習 B		

科学技術コミュニケーションの原点と座標軸
石村源生 / 北海道大学 CoSTEP 准教授
事例研究という方法
三上 直之 / 北海道大学 高等教育推進機構 准教授
科学技術コミュニケーションで期待される哲学の役割 松王政浩 / 北海道大学理学研究院教授
社会の中での科学技術コミュニケーションの役割
～科学技術ジャーナリストを例に～ 隈本邦彦 / 江戸川大学メディアコミュニケーション学部 教授

実践入門 大津珠子・毛利衛 / 北海道大学 CoSTEP 特任准教授・日本科学未来館館長
映像表現と科学技術コミュニケーション
早岡英介 / 北海道大学 CoSTEP 特任准教授
プレゼンテーションの考え方
石村源生 / 北海道大学 CoSTEP 准教授
デザインというプロセスを通した科学コミュニケーションの可能性
大津珠子 / 北海道大学 CoSTEP 特任准教授
サイエンスライティングの基礎
葛西奈津子 / 北海道大学 CoSTEP 特任准教授

経験学習の考え方ー自らの学びをバージョンアップし、学習環境をデザインするためにー
松尾睦 / 北海道大学大学院 経済学研究院 教授
オープンエデュケーションと科学コミュニケーション 重田勝介 / 北海道大学情報基盤センター・高等教育推進機構オープンエデュケーションセンター 副センター長
主体的な学びのためのラーニング・ポートフォリオ 土持ゲーリー法一 / 帝京大学高等教育開発センター センター長

マーケティングの“直観”を体得する
川上慎市郎 / グロービス経営大学院大学
データから見る「科学技術コミュニケーション」の実際（と限界）
川本思心 / 北海道大学 CoSTEP / 理学研究院准教授
科学技術コミュニケーション実践の評価は可能か？どうあるべきか？ー博物館の事例を中心にー 佐々木亨 / 北海道大学大学院文学研究科 教授

食の安全・安心をめぐる科学と社会ーGMO と BSE を例にー 神里達博 / 千葉大学
ASD（自閉スペクトラム症）と学校教育と保護者、当事者児童をつなげる 風間恵美子 / 札幌市教育委員会 特別支援教育巡回相談員
社会システム理論から見たトランスサイエンス
宮台真司 / 首都大学東京

独立系研究者の立場から 見た科学技術コミュニケーション 小松正 / 小松研究事務所（独立系研究者）
理科教員の学校教育と『科学技術コミュニケーション』 青野裕幸 / 中学校教員
『高校生』と『高等学校』を理解する
倉部史記 / NPO 法人 NEWVERY フェロー

多様化する大学内人材と、背景となる高等教育政策・科学技術政策・大学内マネジメントを理解する 難波美帆 / 北海道大学 高等教育推進機構新渡戸スクール
ワーク・イン・レジデンスやサテライトオフィスによる創造的過疎の実現
大南信也 / NPO 法人グリーンバレー理事長
地域のイベントと自治体の役割
長谷山裕一 / 函館市役所 都市建設部参事

研究者とサポーターをつなぐ新たなチャンネル、クラウドファンディング 柴藤亮介 / エデュेशनアル・デザイン株式会社 代表取締役
科学と科学技術コミュニケーションの本質を最高のエンタテインメントに 林雄司 / ディリーポータル Z 編集長（ニフティ株式会社）
ジャーナリストという仕事を再定義する
藤代裕之 / 法政大学社会部准教授

本科実習	対話の場の創造 ライティング・編集 デザイン 映像メディア	選科 集中演習 B
選科 集中演習 B		

奥本素子
池田貴子
早岡英介
川本思心
小林良彦
原健一
内村直之
梶井宏樹
種村剛
朴炫貞
村中令
小田島友美
小野由記子



科学技術コミュニケーションとは何か 川本思心 / 北海道大学 CoSTEP 部門長 / 理学研究院准教授
科学技術コミュニケーションにおけるコミュニケーションを考える 種村剛 / 北海道大学 CoSTEP 特任准教授
社会の中での科学技術コミュニケーションの役割 ～科学技術ジャーナリストを例に～ 隈本邦彦 / 江戸川大学メディアコミュニケーション学部 教授
対話のその前に～コミュニケーションのための科学哲学～ 松王政浩 / 北海道大学理学研究院教授

実践入門 池田 貴子 / 北海道大学 CoSTEP 特任助教
映像メディアと科学技術コミュニケーション 早岡英介 / 北海道大学 CoSTEP 客員准教授
サイエンスライティングの基礎 内村直之 / 科学ジャーナリスト
プレゼンテーションで伝える 古澤輝由 / 立教大学 特任准教授
アートを通して 朴炫貞 / 北海道大学 CoSTEP 特任助教

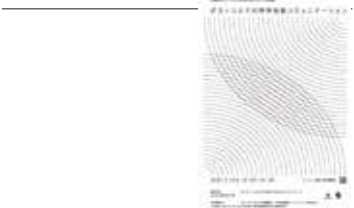
インクルーシブデザインとは～除外しないデザインについて考える～ ジュリア・カセム / 京都工芸繊維大学 KYOTO Design Lab. 特任教授
科学技術と社会と人、大局・全体像・本質をとらえる「システム思考」後藤 拓也 / 株式会社チェンジ・エージェント
誰のための「科学技術コミュニケーション」？ 奥本 素子 / 北海道大学 CoSTEP 准教授
社会貢献をマーケティングに活かすコース・リレーテッド・マーケティング 世良 耕一 / 東京電機大学教授
❶ 科学技術コミュニケーションの事例研究 三上直之 / 北海道大学 高等教育推進機構 准教授

科学技術コミュニケーションと禅 ～人と社会と科学の対話をつむぐ精神～ 松山大耕 / 臨済宗 大本山妙心寺 退蔵院 副住職
思考と科学はどのように触れ合うかー哲学と科学の融合 田口 茂 / 北海道大学大学院文学研究院 教授 / 人間知 × 脳 × AI 研究センター センター長
社会の中のエマージング・テクノロジー 山口富子 / 国際基督教大学教授
科学と専門性の歴史 隠岐さや香 / 名古屋大学大学院経済学研究科・科学史技術史 教授
❷ 汚染土壌とコミュニケーション 保高徹生 / 産業技術総合研究所 主任研究員

吃音：伝えられないもどかしさ 藤井 哲之進 / 近藤 雄 / 北海道言友会 / サイエンスライター
学ぶことは生きること ～病院内学級の現場から～ 副島賢和 / 昭和大学 准教授
❸ 生きるためのコミュニケーション 後藤怜亜 / NHK ディレクター

SDGs を通じた持続可能なまちづくりについて～SDGs 未来都市・札幌の取組～ 佐竹輝洋 / 札幌市環境局
Academic Groove ～面白くなければ学問じゃない～ 清水修 / 株式会社アカデミックグルーヴ 代表理事
科学を視覚化する～サイエンスイラストレーション 菊谷詩子 / サイエンス・イラストレーター
Digital story-telling and video briefs パレット・ブレンダン / 大阪大学 CO デザインセンター 特任教授
CoSTEP の講義を振り返って CoSTEP 教員

本科実習 対話の場の創造
ライティング・編集
ソーシャルデザイン
アートデザイン
選科 A
集中演習 B



古澤正三
福浦友香



科学技術コミュニケーションとは何か 川本思心 / 北海道大学 CoSTEP 部門長 / 理学研究院准教授
科学技術コミュニケーションにおけるコミュニケーションを考える 種村剛 / 北海道大学 CoSTEP 特任准教授
社会の中での科学技術コミュニケーションの役割 ～科学技術ジャーナリストを例に～ 隈本邦彦 / 江戸川大学メディアコミュニケーション学部 教授
対話のその前に～コミュニケーションのための科学哲学～ 松王政浩 / 北海道大学理学研究院教授
日本型サイエンスコミュニケーションの来し方行く末 渡辺政隆 / 同志社大学特別客員教授・東北大学特任教授

実践入門 奥本素子 / 北海道大学 CoSTEP 准教授
映像メディアと科学技術コミュニケーション 早岡英介 / 北海道大学 CoSTEP 客員准教授 / 羽衣国際大学教授
サイエンスライティングの基礎 内村直之 / 科学ジャーナリスト
アートを通して 朴炫貞 / 北海道大学 CoSTEP 特任講師
プレゼンテーションで伝える 小林良彦 / 北海道大学 CoSTEP 特任助教

感情的理解のためのアプローチ 池田貴子 / 北海道大学 CoSTEP 特任講師
オンラインで学び合う場のつくりかた～対話と協同の場づくり～ 杉森 公一 / 北陸大学高等教育推進センター センター長・教授
❶ インクルーシブデザインとは～除外しないデザインについて考える～ ジュリア・カセム / 京都工芸繊維大学 KYOTO Design Lab. 特任教授
インストラクショナルデザイン～教えることの科学と技術～ 杉浦真由美 / 北海道大学高等教育推進機構特任准教授
ミニ・パブリックスを使った「科学技術への市民参加」のデザイン 三上直之 / 北海道大学 高等教育推進機構 准教授

新興・再興感染症対策における倫理とリスクコミュニケーション 武藤 香織 / 東京大学医科学研究所 附属ヒトゲノム解析センター教授
科学と政策の間を可視化する：ELSI とレギュラトリーサイエンス 岸本 充生 / 大阪大学データビリティフロンティア機構教授
動物理解を問い直すー動物倫理の観点から久保田さゆり / 日本学術振興会 特別研究員 PD
❷ 社会の中のエマージング・テクノロジー 山口富子 / 国際基督教大学教授

水俣病との関わりの中で生まれる葛藤と悩みを伝える 永野三智 / 一般財団法人水俣病センター相思社 理事
実験室から議会へ～性的マイノリティの課題解決を目指して～ 洲上綾子 / 北海道議会議員
芸術と社会包摂：アートを通じて考える障害 長津結一郎 / 九州大学大学院芸術工学研究院助教

「何を、なんのために、どう伝えるか」「新型コロナ」と「ヒト胚へのゲノム編集」を例に 詫摩雅子 / 日本科学未来館 科学コミュニケーション専門主任
研究機関の広報担当～社会と研究者の間で 倉田智子 / 基礎生物学研究所 広報室 特任助教
新しい価値を共創する対話の場づくりについて～グラフィックファシリテーションという技術～ 出村沙代 / グラフィックファシリテーター
地域にある最先端で、北海道の新しい価値を生み出す 成田智哉 / マドラー株式会社
CoSTEP の講義を振り返って CoSTEP 教員

本科実習 対話の場の創造
ライティング・編集
グラフィックデザイン
ソーシャルデザイン
選科 A
集中演習 B



大内田美沙紀
森沙耶



科学技術コミュニケーションとは何か 川本思心 / 北海道大学 CoSTEP 部門長 / 理学研究院准教授
科学技術コミュニケーションにおけるコミュニケーションを考える 種村剛 / 北海道大学 CoSTEP 特任准教授
社会の中での科学技術コミュニケーションの役割 ～科学技術ジャーナリストを例に～ 隈本邦彦 / 江戸川大学メディアコミュニケーション学部 教授
科学技術史の視点を博物館展示に活かす 有賀暢迪 / 一橋大学 言語社会研究科 准教授
科学技術コミュニケーションを「国際的」な視点から捉え直すということ 工藤充 / 公立はこだて未来大学システム情報科学部メタ学習センター

実践入門 梶井宏樹・福浦友香 / 北海道大学 CoSTEP 博士研究員
サイエンスライティングの基礎 吉田拓実 / フリーランス
伝えるプレゼンテーション 古澤正三 / 北海道大学 CoSTEP 特任講師
映像メディアと科学技術コミュニケーション 早岡英介 / 北海道大学 CoSTEP 客員教授 / 羽衣国際大学教授
インフォグラフィックスについて チャン・ソnfファン / 203 Infographic 研究所代表 / 国民大学テクノデザイン大学院兼任教授 / 月刊『ストリートH』発行人

展示する科学コミュニケーション 宮原裕美 / 日本科学未来館 科学コミュニケーション室長代理
社会課題解決のための協働型評価～対話とエビデンスの交差 源由理子 / 明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科 教授
科学技術コミュニケーションのための情報と計画 奥本素子 / 北海道大学 CoSTEP 准教授
ミニ・パブリックスを使った「科学技術への市民参加」のデザイン 三上直之 / 北海道大学 高等教育推進機構 准教授

感情的理解のためのアプローチ 池田 貴子 / 北海道大学 CoSTEP 特任講師
建築・都市における AI とビッグデータの可能性 吉村 有司 / 東京大学 先端科学技術研究センター 特任准教授
身体や心に介入する技術に対する倫理 佐藤岳詩 / 専修大学 文学部哲学科 准教授
科学と政策の間を可視化する：ELSI とレギュラトリーサイエンス 岸本 充生 / 大阪大学データビリティフロンティア機構教授

感染症の情報を何のためにわかりやすく伝えるか？ 出村政彬 / 日経サイエンス編集部
アートをインストールしていくこと 朴炫貞 / 北海道大学 CoSTEP 特任講師
歴史的建造物の保存活用活動 財産と想いの対立と調整から始まる 東田秀美 / NPO 法人旧小熊部倶楽部 理事長
❶ 実験室から議会へ～性的マイノリティの課題解決を目指して～ 洲上綾子 / 北海道議会議員

彫刻と人間：科学と技術から再考する 小田原のどか / アーティスト
SF 思考と科学技術コミュニケーション～SF プロタイピングの現在と未来～ 宮本道人・藤本敦也 / 科学文化作家・三菱総合研究所 シニアプロデューサー
対話から新しいサービスを生み出だす～民間企業での新規事業開発と科学技術コミュニケーション～ 坪井 淳子 / 東京海上ディーアル株式会社 主任研究員
正しいだけの医療情報はもはや嫌われている 市原 真 / JIA 北海道厚生連札幌厚生病院 病理診断科 主任部長
CoSTEP の講義を振り返って CoSTEP 教員

本科実習 対話の場の創造
ライティング・編集
グラフィックデザイン
ソーシャルデザイン
選科 A
集中演習 B



宮本道人
寺田一貴



科学技術コミュニケーションとは何か 川本 思心 / 北海道大学 CoSTEP 部門長 / 理学研究院准教授
先端科学技術の倫理的・法的・社会的課題と責任ある研究・イノベーション 標葉隆馬 / 大阪大学 ELSI センター准教授
対話のその前に～コミュニケーションのための科学哲学～ 松王政浩 / 北海道大学 OEC センター長 / 理学研究院 教授
社会の中での科学技術コミュニケーションの役割 ～科学技術ジャーナリストを例に～ 隈本邦彦 / 江戸川大学メディアコミュニケーション学部 教授
コミュニケーションを改めて考え直す 種村剛 / 北海道大学 大学院教育推進機構リカレント教育推進部 特任教授

実践入門：アートを通したサイエンスコミュニケーション 朴炫貞 / 北海道大学 CoSTEP 特任講師
伝えるプレゼンテーション 古澤正三・池田貴子 / 北海道大学 CoSTEP 特任講師
映像メディアによる科学技術コミュニケーション 早岡英介 / 北海道大学 CoSTEP 客員教授 / 羽衣国際大学教授
科学の目で描くイラストレーション 大内田美沙紀 / 北海道大学 CoSTEP 特任助教

哲学思考の方法及びその伝え方～哲学カフェやメディアでの実践から～ 小川仁志 / 山口大学国際総合科学部 教授
ミニ・パブリックスと参加・熟議のデザイン 三上直之 / 北海道大学高等教育推進機構 准教授
複雑さに対処するためのシステム工学 三浦政司 / 宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 准教授 / 株式会社レヴィ 共同創業者
観察と発見のデザイン 三澤遥 / 日本デザインセンター三澤デザイン研究室 室長
社会課題解決のための協働型評価～対話とエビデンスの交差 源由理子 / 明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科 教授

感情的理解のためのアプローチ 池田貴子 / 北海道大学 CoSTEP 講師
サイエンスを想像するアートと、社会を創造するジャーナリズムの間にあるもの 森旭彦 / サイエンスライター
巨大科学と実験室科学を対象とする科学技術コミュニケーションの実践と課題 笠田 竜太 / 北海道大学金属材料研究所教授
建築・都市における AI とビッグデータの可能性 吉村 有司 / 東京大学 先端科学技術研究センター 特任准教授

性の多様性と科学：「セックスは、つねにすでにジェンダーである」こと 満島てる子 / 7 丁目のバウダールーム店長 / さっぽろレインボープライド実行委員会 副実行委員長
医療現場が直面するコミュニケーションの課題について考える 加部一彦 / 埼玉医大総合医療センター新生児科 教授
日本の感染症対策の必要性について 佐藤彰彦 / 北海道大学人獣共通感染症国際共同研究所 客員教授 / 塩野義製薬 主席研究員
謎に包まれる女性たち：女性から見る科学、科学が見る女性 イム・ソヨン / 韓国東和大学 基礎教養大学 助教

農林水産省の「攻めの」広報戦略について 白石優生 / 農林水産省大臣官房広報評価課広報室
野生動物にまつわる問題を報道すること 内山 岳志 / 北海道新聞 記者
防災・減災のための雲科学コミュニケーション 荒木健太郎 / 雲研究者・気象研究所主任研究官・学術博士
共創の場作り ～文化と経済の両輪で創造的に MIRAI を切り拓く～ 福島慶介 / 建築家・クリエイティブディレクター / (株)福島工務店 代表取締役 / N 合同会社 代表社員 / NPO 法人 OTARU CREATIVE PLUS 専務理事
CoSTEP の講義を振り返って CoSTEP 教員

本科実習 対話の場の創造
グラフィックデザイン
ソーシャルデザイン
選科 A
集中演習 C



宮本道人
鈴木真理子



科学技術コミュニケーションの入り口に立つ前に 奥本素子 / 北海道大学 CoSTEP 部門長 / 大学院教育推進機構 准教授
コミュニケーションを改めて考え直す 種村剛 / 北海道大学大学院教育推進機構リカレント教育推進部特任教授
博物館・科学館において最先端の科学技術と社会受容をいかに展示するか 塩瀬隆之 / 京都大学総合博物館 准教授
社会の中での科学技術コミュニケーションの役割：科学ジャーナリストを例に 隈本邦彦 / 江戸川大学マス・コミュニケーション学科特任教授

実践入門：アートを通したサイエンスコミュニケーション 朴炫貞 / 北海道大学 CoSTEP 特任講師
映像メディアによる科学技術コミュニケーション 早岡英介 / 北海道大学 CoSTEP 客員教授 / 羽衣国際大学教授
伝えるプレゼンテーション 古澤正三・池田貴子 / 北海道大学 CoSTEP 特任講師
サイエンスイラストレーションで伝える科学 大内田美沙紀 / 北海道大学 CoSTEP 特任助教
空想科学コミュニケーションで古びた未来を破壊せよ 宮本道人 / 北海道大学 CoSTEP 特任助教

ミニ・パブリックスと参加・熟議のデザイン 三上直之 / 名古屋大学大学院環境学研究科教授
コミュニケーションの要素について 森岡督行 / 森岡書店 店主
メディカルクリエイター / サイエンスデザイナーを持続可能な専門職へ 永田徳子 tokko / 株式会社レーマン 代表取締役

社会問題 / 社会関係資本を生み出す SNS 前田正剛 / 追手門学院大学
感情的理解のためのアプローチ 池田貴子 / 北海道大学 CoSTEP 特任講師
SOGIESC の世界 瀬名波栄潤 / 北海道大学文学研究院

アクセシビリティを想像し具体化するためのいくつかの実践と概念 キム・ウォニョン / 作家
ファクトに基づく調査報道の限界と可能性、ジャーナリズムの本質とは 鈴木エイト / ジャーナリスト・作家
科学技術にまつわる不安との付き合い方 大浦宏昭 / NPO 法人 市民と科学技術の仲介者たち 代表理事

生物多様性異変と迫り来る危機 五箇公一 / 国立環境研究所 生態リスク評価・対策研究室長
逆になんでうまくいったと思います？：みんなで作る「学問バー試論」 豆腐 (山口真幸) / 学問バー Kisi 店長
サイエンスを届けるメディアとしてのインフルエンサーモデル 須貝駿貴 / QuizKnock / 国立科学博物館認定サイエンスコミュニケーター / 博士 (学術)
すではじまっている未来と日本の今 若宮 正子 / 一般社団法人メロウ倶楽部 理事 / 熱中学校教育 / 公益社団法人 NEXT VISION 理事 / 内閣府・高齢社会対策大綱策定のための検討会構成員 / 岸田首相主催・デジタル田園都市国家構想実現会議構成員 / デジタル庁デジタル社会構想会議構成員 / 総務省デジタル活用支援アドバイザーボード構成員 / IT エンジェルリスト
CoSTEP の講義を振り返って CoSTEP 教員

本科実習 対話の場の創造
ライティング・編集
グラフィックデザイン
選科 A
集中演習 B
C



奥本素子
朴炫貞
池田貴子
古澤正三
大内田美沙紀
沼田翔二郎
本平航大
小田島友美
鈴木真理子
福津圭佑



科学技術コミュニケーションの入り口

奥本素子 / 北海道大学 CoSTEP 部門長／大学院教育推進機構 准教授

コミュニケーションを改めて考え直す

種村剛 / 北海道大学 大学院教育推進機構リカレント教育推進部 特任教授／ CoSTEP フェロー

社会の中での科学技術コミュニケーションの役割：科学ジャーナリストを例に 隈本邦彦 / 江戸川大学 メディアコミュニケーション学部 教授

対話のその前に～コミュニケーションのための科学哲学 松王政浩 / 北海道大学 OEC センター長／理学研究院 教授

「うちの分野だとアーギュメントは重要じゃない」と思っているあなたへ——研究と価値の問題について 阿部幸大 / 筑波大学人文社会系 助教

実践入門 古澤正三 / 北海道大学 CoSTEP 特任講師
伝えるプレゼンテーション

本平 航大・沼田 翔二郎 / 北海道大学 CoSTEP 特任助教
映像メディアによる科学技術コミュニケーション 早岡英介 / 北海道大学 CoSTEP 客員教授／羽衣国際大学教授

サイエンスイラストレーションで伝える科学 大内田美沙紀 / 北海道大学 CoSTEP 特任助教

【20 周年イベント共同企画】「未来智への 4 0 年」～北大発科学技術コミュニケーション～
毛利衛 / 宇宙飛行士・日本科学未来館名誉館長・全国科学館連携協議会会長

感情的理解のためのアプローチ 池田貴子 / 北海道大学 CoSTEP 特任講師

心が通う科学コミュニケーション：「説明義務」対「監視義務」から「共感」という原初の喜びへ 河本宏 / 京都大学 医生物学研究所 所長

ミニ・パブリックスに参加・熟議のデザイン 三上直之 / 名古屋大学大学院環境学研究科 教授

The Directions for Science Communication in Asia -based on collaborative experiences-
Cho Sook-kyoung/Professor of Korea Institute of Energy Technology

「聞く」ことによる合意形成

宮内泰介 / 北海道大学大学院文学研究院 教授

メタバース進化論：住人の生活と大規模調査データから見るソーシャル VR の課題と革命性

バーチャル美少女ねむ /VTuber / 作家 / メタバース文化エバンジェリスト

ELSI から考える科学技術の社会実装と「倫理」 朱稀哲 / 大阪大学 社会技術共創研究センター (ELSI センター) 招へい准教授／哲学者

社会問題／社会関係資本を生み出す SNS 前田至剛 / 追手門学院大学 社会学部 准教授

すれ違う支援者満足と当事者満足 多様性の時代に求められる回復の視点

福岡将太 / 医療法人 風のすずらん会 美咲すずらんクリニック 副院長／視覚障害をもつ医療従事者の会 ゆいまーる 幹事／公益社団法人 NEXT VISION 理事

中国 SF の過去・現在・未来 山本範子 (立原透耶) / 北星学園大学文学部 教授

民族多様性と「わたし」の位置：大学を例に考える 北原モコットウナン / 北海道大学 アイヌ・先住民研究センター 准教授

ファクトに基づく調査報道の限界と可能性、ジャーナリズムの本質とは 鈴木エイト / ジャーナリスト・作家

大学の先生芸人が伝えるサイエンスコミュニケーション～それほど科学に興味がない人にどのように伝えるのか～ 黒ラブ教授 / 吉本興業 (大学の先生芸人)

理系分野に進学する女性が少ないのはなぜでしょうか？ 一方井祐子 / 金沢大学人間社会研究地域創造学系 准教授

エンターテインメント業界の武器としての科学、その意義と価値 蛇蔵 / 漫画家・原作者

STI 政策の中の科学技術コミュニケーション、STI 政策への科学技術コミュニケーション 菊地乃依瑠 / 国立研究開発法人 科学技術振興機構 研究開発戦略センター フェロー

CoSTEP の講義を振り返って CoSTEP 教員

本科	対話の場の創造
実践演習	ライティング・編集 グラフィックデザイン
選科	A
集中演習	B C

CoSTEP のミッション

CoSTEP は、科学技術コミュニケーションの入口として、知を創造する開けたコミュニティをつくり出すことで、暮らしやすい社会に貢献します。

CoSTEP のビジョン

CoSTEP は、科学技術コミュニケーションの「価値創造性」と「おもしろさ」を広く伝えていきます。

CoSTEP の沿革

2005 年	7 月	北海道大学科学技術コミュニケーター養成ユニットが発足。 初代代表 杉山滋郎 (～2013 年 3 月)
	10 月	科学技術コミュニケーター養成プログラムの 2005 年度受講生を受け入れ
2006 年	3 月	2005 年度受講生 40 人が修了 (本科 10 人、選科 30 人)
	5 月	2006 年度受講生の教育プログラムを開講、E ラーニングによる講義配信を本格運用
2007 年	3 月	2006 年度受講生 51 人が修了 (本科 26 人、選科 25 人)
	5 月	2007 年度受講生の教育プログラムを開講
2008 年	3 月	2007 年度受講生 77 人が修了 (本科 32 人、選科 45 人)
	5 月	2008 年度受講生の教育プログラムを開講、選科に A・B の 2 コースを新設
2009 年	3 月	2008 年度受講生 70 人が修了 (本科 20 人、選科 50 人)
	5 月	2009 年度受講生の教育プログラムを開講
2010 年	2 月	2009 年度受講生 76 人が修了 (本科 24 人、選科 52 人)
	4 月	高等教育機能開発総合センター 科学技術コミュニケーション教育研究部へ改組
	5 月	2010 年度受講生の教育プログラムを開講
	10 月	高等教育推進機構 高等教育研究部 科学技術コミュニケーション教育研究部門へ改組
2011 年	3 月	2010 年度受講生 65 名が修了 (本科 22 名、選科 43 名)
	5 月	2011 年度受講生の教育プログラムを開講、研修科を開設
2012 年	3 月	2011 年度受講生 65 名が修了 (本科 22 名、選科 37 名、研修科 6 名)
2013 年	3 月	2012 年度受講生 65 名が修了 (本科 20 名、選科 39 名、研修科 6 名)
2014 年	3 月	2013 年度受講生 64 名が修了 (本科 21 名、選科 40 名、研修科 3 名)
	4 月	第 2 代代表 松王政浩 (～2017 年 3 月)
2015 年	3 月	2014 年度受講生 69 名が修了 (本科 24 名、選科 41 名、研修科 4 名)
	4 月	高等教育推進機構 オープンエデュケーションセンター 科学技術コミュニケーション教育研究部門へ改組
2016 年	3 月	2015 年度受講生 81 名が修了 (本科 20 名、選科 53 名、研修科 8 名)
2017 年	3 月	2016 年度受講生 72 名が修了 (本科 29 名、選科 36 名、研修科 7 名)
	4 月	第 3 代代表 川本思心 (～2024 年 3 月)
2018 年	3 月	2017 年度受講生 80 名が修了 (本科 31 名、選科 36 名、研修科 13 名)
2019 年	3 月	2018 年度受講生 74 名が修了 (本科 31 名、選科 33 名、研修科 10 名)
2020 年	3 月	2019 年度受講生 79 名が修了 (本科 33 名、選科 38 名、研修科 8 名)
2021 年	3 月	2020 年度受講生 72 名が修了 (本科 25 名、選科 38 名、研修科 9 名)
2022 年	3 月	2021 年度受講生 74 名が修了 (本科 26 名、選科 39 名、研修科 9 名)
	4 月	大学院教育推進機構の新設に伴い、高等教育推進機構から移管。 正式名称が北海道大学 大学院教育推進機構オープンエデュケーションセンター 科学技術コミュニケーション教育研究部門 (CoSTEP) に変更となる
2023 年	3 月	2022 年度受講生 68 名が修了 (本科 20 名、選科 44 名、研修科 4 名)
2024 年	3 月	2023 年度受講生 64 名が修了 (本科 19 名、選科 44 名、研修科 1 名)
	4 月	第 4 代代表 奥本素子 (～現在)
2025 年	3 月	2024 年度受講生 84 名が修了 (本科 23 名、選科 57 名、研修科 4 名)
	4 月	北海道大学履修証明プログラム化 厚生労働省 教育訓練給付の講座指定講座 認定 文部科学省 職業実践力育成プログラム (BP) 認定

社会を考える切り口 | 専門家と市民をつなぐこと | とにより共に考える | 地域発展の基礎力 | 信頼と覚悟 | 油 | 科学による共創 | 場づくり | 知り続けること | すきなこと × すべきこと | とともに未来を考えること | 社会に科学を生かすモノ | 人が科学を語り合うための手段 | 自分と世界をつなげる | つなぐ、共に悩み、ひろげる | 島々のあわいに船を渡し、橋を架けること | 科学技術とリスクの関わりを分かり易く伝えること | 会ったことのない誰かの視点や思考を想像すること。 | 多様な視点を重ね合わせて、新しい風景を作り出すこと | 科学についてみんなで考え、悩み、共有すること。 | すべての人が平等に科学とつながるための温もり | 科学技術を触媒とした相互理解 | 科学技術を伝えたい相手への翻訳作業 | 多様で豊かな社会を築くための対話 | 科学の場から新しい価値を生み出す立役者 | 科学に体温を与え、心と心をむすぶこと | 世界を少し広げてくれるもの | みんなでみんなの視野を広げること | 人々が新しく良い世界に全員で向かっていける道を築くもの | 半学半数 | 人が主体的に考えることを手助けすること。 | 双方向の理解 (イメージの共有) | 生きやすくなるための対話や関わり | 科学を起点とした新たな視点、新たな価値創出の場づくり | 科学技術をあらゆる人の手に届ける糸口 | 客観的に科学技術を理解し、主観的に社会へと伝える | 科学者の意見を発信する場、市民の意見を表現する場を作ること | 関係するステークホルダーとこれらを考えるためのツール | 狭間で立ち尽くし、自分の言葉で語ること | 身のまわりにある「社会」や「世界」を捉え直すためのひとつの切り口 | 初めて自転車に乗れたときのような体験をみんなに創り出すこと | 科学に関して、複数の人がお互いに影響を及ぼし合い考えを深めること | 科学技術が社会と共に発展していくために必要となる伴走支援機能 | 日常の中にある科学のモヤモヤを拾い上げ、共有できる場を創り出す | 科学者と市民を含む多様なステークホルダーの間に共通認識と信頼関係を醸成するもの | 人々の科学と社会に対する解像度を上げ、未来に向けてありたい姿をともに考えること | 科学と社会 (生活・人) を対話によってつなぐと試みる作業 | 思いやり | より良い社会を創るエンターテインメント! | 入り口であり出口 | 各自の話に耳を傾けること | 人と人を繋ぐ起爆剤、自然な双方向コミュニケーション



みなさんの CoSTEP に対する思い出はどんなものですか。ずらりと並ぶ 20 年間の講義、この紙面にまとめきれなかった実践活動、そこで感じた喜びや苦労まで、1400 名それぞれに、1400 通りの記憶があると思います。今回のアーカイブづくりでは、一覽で残すべき情報を整理する一方で、誌面に収められなかったさまざまな出来事が次々と頭に浮かびました。その確かな一つ一つの足跡、地道な積み重ねが今の CoSTEP を作りあげたと思うと、20 年の重みがどっしりと感じられます。これからの CoSTEP も、過去の経験をエネルギーにしながら、時代とともに変わっていくでしょう。みなさんの思い出に新しいページをどんどん重ねながら、これからの CoSTEP にもどうぞご期待ください！

あなたにとって科学技術コミュニケーションとは？



「科学技術コミュニケーション」について学び続ける 1 年を修了する時、自分の中の「科学技術コミュニケーション」を言葉に表しています。20 周年を迎えた今、みなさんは、今どのように答えますか？二次元コードからアクセスし、みなさんの答えをお寄せください。

CoSTEP は各種 SNS から情報配信しています。フォローをお願いします。



北海道大学 大学院教育推進機構

科学技術コミュニケーション教育研究部門

(CoSTEP・コーステップ)

〒060-0817 札幌市北区北 17 条西 8 丁目

北海道大学 高等教育推進機構 N163A 室

costep_office@ml.hokudai.ac.jp / tel&fax 011-706-5320

CoSTEP は科学技術の専門家と市民の橋渡しをする人材を育てる教育研究組織です。